

	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	<p>国立極地研究所（総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻（D：2第3年次：1））</p> <p>国立情報学研究所（総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻（D：4第3年次：6））</p> <p>統計数理研究所（総合研究大学院大学複合科学研究科統計科学専攻（D：2第3年次：3））</p> <p>国立遺伝学研究所（総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻（D：3第3年次：6））</p> <p>新領域融合研究センター</p> <p>ライフサイエンス統合データベースセンター</p>
沿 革	<p>昭和48(1973)年 国立極地研究所設置</p> <p>昭和59(1984)年 国立遺伝学研究所設置</p> <p>昭和60(1985)年 統計数理研究所設置</p> <p>平成12(2000)年 国立情報学研究所設置</p> <p>平成16(2004)年 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構設立</p> <p>平成17(2005)年 新領域融合研究センター設置</p> <p>平成19(2007)年 ライフサイエンス統合データベースセンター設置</p>
設置目的等	<p>○大学共同利用機関及び大学共同利用機関法人の設立経緯</p> <p>我が国では、特定分野の研究を行うことを目的とする研究所は、従来、特定大学に附置する形で設置されてきたが、学術研究の発展に伴い、個々の大学の枠を越え、全国の大学から研究者が集って、大規模な施設設備等を共同で利用し、効果的な共同研究を進める組織が求められるようになった。そのため、昭和46年に初めて、特定大学に附置しない大学の共同利用の機関として、高エネルギー物理学研究所が設置された。以後、種々の学術分野の要請に基づき順次拡大され、各々の分野において高度な学術研究を進める我が国の中核的な研究拠点として発展。平成16年度の国立大学法人化の際、大学共同利用機関法人4機構に再編され、上記に加え、各機構における共同研究等を通じ、時代が要請する新たな学問分野創出への戦略的な取組等を実施。（4機構17大学共同利用機関（平成25年度現在））</p> <p>○大学共同利用機関法人とは</p>

我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図るため、大学共同利用機関を設置することを目的として、国立大学法人法に基づき設立された法人。

○大学共同利用機関とは

- ・大規模な施設・設備や大量の学術情報・データ等を、個々の大学の枠を越え、全国の大学等の研究者の共同利用に供し、効果的な共同研究を進めるための組織。
- ・研究者コミュニティの意見を反映した運営により、研究者の自由な発想を源泉とする学術研究を推進。

<主な機能>

大型施設・設備の提供、学術資料（情報）の収集・保存・提供、学術情報流通基盤の整備、共同利用・共同研究の場の提供

- ・大学院学生の受入れを行うなど、研究と教育を一体的に実施し、人材養成に貢献。

○法令上の規定

(国立大学法人法 別表第二(第二条関係))

【情報・システム研究機構】

情報に関する科学の総合研究並びに当該研究を活用した自然及び社会における諸現象等の体系的な解明に関する研究

※生命、自然・環境、人間・社会など複雑な現象に関する問題に対し、機構内4研究所が従来の研究分野を越えて連携協力することにより、新しい研究環境をつくり「新領域」創造をめざすため新領域融合研究センターを設置。

※ライフサイエンス分野におけるデータベース統合化の拠点形成することを目的としてライフサイエンス統合データベースセンターを設置。

(国立大学法人法施行規則 別表第一(第一条関係))

【国立極地研究所】

極地に関する科学の総合研究及び極地観測

【国立情報学研究所】

情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための先端的な基盤の開発及び整備

【統計数理研究所】

統計に関する数理及びその応用の研究

【国立遺伝学研究所】

遺伝学に関する総合研究

強みや特色、
社会的な役割

情報・システム研究機構は、情報とシステムの観点から新たなパラダイムの構築と新分野の開拓を行い、最先端の研究を推進するとともに、研究者コミュニティに対して大規模情報時代における学術研究の機動的効果的展開を支援するための情報基盤を提供することにより、我が国の研究に貢献してきたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

○ 第4の科学と言われるデータ中心科学の推進及び異分野交流に必要なT型・π型人才の育成にも取り組むとともに、各研究所ではそれぞれの特色を生かして、総合研究大学院大学の基盤機関として緊密な関係・協力を進めるとともに、特別共同利用研究員やポスドクの受入れ等により、若手研究者の育成を行っている。高い専門性と国際的な通用性を付与するとともに、独創性、専門性、汎用力を有しつつ自然と調和のとれた科学の発展あるいは人と社会のための科学の発展に貢献できる高度な研究能力を有する博士研究者育成の役割を果たす。

※総合研究大学院大学個票参照

○ 学術的に価値の高い試料やデータベース、国内外からの研究者集団交流という研究環境を備えた各研究所の教育・研究の場を充実、強化させ、それを積極的に活用した研究教育指導を展開する。このような環境を活用し、総合研究大学院大学の基盤機関としての活動を中心とした大学院生教育に取り組むとともに、連携大学院制度、特別共同利用研究員制度に基づく大学院生の受入れを積極的に行い、研究者及び高度技術者の養成を実施する。更に、機構関連の専攻が関係して学際色を増したプログラムを構築するとともに、専攻を超えた学生間の融合研究をサポートし、広い視野を持つ学生の教育に取り組む。

※総合研究大学院大学個票参照

○ 極域科学、情報学、統計数理、遺伝学に関する国内唯一の中核拠点として、各分野の最先端の研究を推進するとともに、大学共同利用機関として研究者コミュニティの意見を反映しつつ、南極・北極での観測基盤や試料の提供、最先端学術情報基盤の構築、統計的方法に基づく諸分野との共同研究の推進、バイオリソースやゲノム情報等の研究基盤の構築と提供などを行い、当該分野のみならず我が国の学術研究の発展に貢献する。また、ビッグデータに基づく知識創造のための科学的方法論としてのデータ中心科学の確立を目

指し機構の総力を結集してリサーチcommons事業を推進している。そのために、機構内の各研究所の得意分野を組み合わせることで統合データベースの構築、データとモデルに基づく真理の発見と予測の独創的な手法の創出を目指すとともに、新たな研究分野パラダイムの創造を目指し、融合研究を推進する。以上の様な強みをもって国際拠点形成を目指す。

- 各研究所は最先端の研究を生かして、産業界との積極的な連携を行うとともに、シンポジウムの開催、研究施設の一般公開、公開講演会、大学・高校等からの依頼による見学受入れや出前授業、研究成果のプレスリリースなど積極的な情報発信による国民の理解を深める活動を通じて、学術の発展及び国民の理解増進に寄与する。
 - 学生の流動化を促進することのほかに、急速に発展する自然科学をリカレント教育する必要性が高まっているため、引き続き社会人学生の受入れを積極的に図り知識基盤社会の高度化に資する。
- ※総合研究大学院大学個票参照